

# 文芸

## 俳句

小庭こにはにも夜の貌かおあり梅雨かきに入る

伊藤 敬子

擬宝珠ねいぼうしゅの葉面はおも転がる雨上あめがり

今関満喜子

コーヒーの香り漂う梅雨かきの入

魚地 照子

桜桃おうとう忌肌いみにまつはる宵よの風

江森 悦子

洗濯機せんたくきへ汗あせのシャツ入れ一日終おひゆ

川島 通則

友垣ともがきのグラウンドゴルフ夏帽子

向後 寛

汗肌あせ着脱きだがしてくれる子等こらの居て

越川せつ子

呑みすぎて眠り地蔵ぢざうや夏屋敷

小松 藤男

入道雲にゅうだうぐもジェット機きバクと呑みのみにけり

佐瀬 輝夫

汗湧泡あせわ稚わもおでこに光る珠

椎名万里子

ポーート行き小波なみ静かに岸かた辺打うつ

市東富美江

青芒風あおぼうふうを抱かかいたり離はなしたり

鈴木とし子

一村を包む神秘や虹の橋

土屋美枝子

翡翠の視線に青むみなもかな

土屋 義昭

梅雨かき最中追われし草に逃げきれず

内藤 くに

風薫る少し強めに踏むペダル

早川 勇

大空をめぐす燕の子の駅舎

藤田 雅夫

## 短歌

わが家の石榴ざくろを短歌たんかに詠みし君

花の咲くけふ訃報ふほうが届く

囃子はやし方乗せたる山車やまぐるまの綱なわを引く

子等の行列長くつづけり

開創より千二百年の高野山

奥の院にて手を合はせたり

水須 俊

二年間退女たいじよ教役員果たせしに

語らい尽きぬ打ち上げの会

浅野 榮子

畝いくつ乗り越へ南瓜なまぐわいの太き蔓

胡瓜かきの棚へと這ひ上がりゆく

押尾 輝子

十日ぶり見回る畑いんげんの隠元かくげんは

葉が繁りあひ支柱しちゅうをかくす

青木 秀子

来てくる人は宝たからと笑みながら

一人住まいの嬸おきなは語る

雨降るも林の中より杜鵑ほととぎす

時惜しむらしひたすら鳴きぬ

庭の木を抜けゆく風に犬の名を

呼びかけみたり亡きと知りつつ

吾の腕に背を押しあてて寝る犬の

ぬくみほつこり伝はりて来ぬ

庭畑にわばたに移植うつをしたる青紫蘇あおむすの

早も育ちて清すがしく香る

橋の上に車を止めて両手ふり

教へ子なりしは帰り行きたり

……

農政の貧困言わずいそいそと

早起きしての畦あぜを刈りゆく

有り合わせの野菜あつめて夕食に

母在りし日の思ひ出を煮る

……

……

……

……

……

……

……

……

……

## 作品展

### ◎町民会館ミニギャラリー

8月 華舟会

9月 新ペン習字クラブ

### ◎文化会館ロビー展

8月 短歌会

9月 アートクレイクラブ

### ◎サビア展

8月 横芝写真クラブ

9月 展示なし

### ◎銚子商工信用組合展

8月 俳句会

9月 アート押し花クラブ

こうほう  
博物館 89

## 水の中から出た花

ある所に植えてあるスイレンの間から、黄色い小さな花がぼつぼつと咲いているのを見つけた。

花の大きさは1cmにも満たないが、黄色の鮮やかさはスイレンの花に負けていない。葉は水の中にあって、細かい糸状のものが密集し、とても花の葉とは思えない。私も初めて見る花で、調べたり聞いたりしたところ、これはタヌキモであることがわかった。

タヌキモは世界各地に分布し、日本でも数種類が全国的に分布しているようだが、いずれも絶滅が心配されている。そしてこのタヌキモの一番の特徴は、食虫植物ということである。タヌキモの葉の中に、補虫囊

と云う小さな袋があり、その袋で水中の小動物(主にミジンコ)を捕え、消化吸収し栄養としているという。このような小さく可憐な花でも、よく見るとすごい能力をもっている。(社会文化課 道澤 明)



▲タヌキモの花